

岡谷市議会 社会委員会 行政視察報告書

【総体事項】

1. 視察日程：令和5年11月14日(火)～16日(木)

2. 調査事項（視察先）

(1) 栃木県小山市：社会福祉法人 パステル

障害者支援施設、多機能型事業所等経営のほか、
地域貢献活動、桑の木栽培、おかいこ飼育

(2) 栃木県真岡市：WinGraffiti 株式会社

就労継続支援事業所「わらくや」、平飼い「ゆいのたまご」

(3) 茨城県水戸市：水戸市清掃工場 えこみっと

就労支援事業所水戸市リサイクルセンター併設

(4) 茨城県日立市：日立市役所、Hi タッチランド ハレニコ

子育て支援施策 「日立市独自の6つの無料」

駅前大型店撤退跡地に北関東最大級の全天候対応型遊び場
を設置

3. 視察参加委員

副委員長	秋山 良治
委員	上田 澄子
委員	田村 みどり

（3名急病等により欠席）

【視察地報告】

(1) 栃木県小山市「社会福祉法人 パステル」

1. 施設・事業概要

パステルは「自立へのステージ」をコンセプトに、障害のある方（児）を対象に「楽しく働き・元気に遊び、豊かに住もう」をモットーに障害福祉サービスを総合的に支援する事業所。

生活支援・就労支援・相談支援・児童発達支援など 30 の事業所、460 人の利用者・グループホーム 99 人・入所 30 人・スタッフ 240 人の規模。この規模でも中程度とのことでした。全国で 4 か所のミュージックケア施設の 1 つで養成施設でもある。定期的に演奏会などを開催している。

2. 評価、感想

- ・石橋代表の想いが、理念や考え方に反映されており、それに共感するスタッフや利用者が集まり、みんなが楽しく働き笑顔溢れ、それぞれの色に染まる、まさにパステルのような施設になっていたと感じた。
- ・これだけ大きな社会福祉法人の始まりが、養護学校の先生にある保護者が「養護学校を卒業させてから行く場所がない」という相談から始まったことに感動した。
- ・事業所内で作業をされている利用者の生き生きとした表情に、それぞれの仕事や居場所の確保がされていることが実感できた。
- ・社会福祉法人内で利益が出た時には利用者への還元が図られていること、多様化していく障がい者の生活に寄り添った、一番大切な基礎生活力の向上を考えての事業所の運営などには大いに学ぶべき点であった。

3. 岡谷市に反映すべき点

岡谷市内にもたくさんの福祉事業所はあり、それぞれの特色ある事業が展開されている。それぞれの事業所が抱える課題について、これまで以上に丁寧に対応を希望する。事業者自体が元気であれば利用者も元気なると考えるからである。

(2) 栃木県真岡市 「WinGraffiti 株式会社」

1. 施設・事業概要

代表取締役島田利枝氏は、精神に障がいをお持ちの家族がおり、そのために貧困という環境があった。どのようにすれば本人もその家族も安定した生活を送ることができるのかを模索していた。代表の想いとして「障害を人生の障

害にはしない」がある。

障がいのある方が作っているものでも価値がそれ相当にあるため、一切安く売るつもりはない。という考え方の上で障がいは個性であり、個性が生み出す利益を通して、今までにない画期的な事業創造で豊かな暮らしと福祉の増進を考えた上で、社会福祉法人格の団体ではなく株式会社になっている。

主な福祉事業として、就労継続支援 A・B 型事業所「わらくや」障がい児放課後等デイサービス「わらくや Jr. ドリーム」純国産鶏「もみじ」の平飼い赤玉「ゆいのたまご」は直売ストアや通信販売などの事業展開をしている。

2、評価、感想

養鶏事業は通年を通して利用者が作業できること、利用者ひとりひとりの特性を生かした作業配分が考えられ、それぞれの作業の反復により作業への熟練度が高められることなどから、利用者には働きやすい環境となっている。利用者の目標とするところは、「自分で収入を得て自立した生活ができること」である。

代表取締役の島田氏の次年度の目標が年収 1 億 2 千万円を考えているとのことであった。

「障がい者が就労してなぜ儲けを出してはいけないのか」「しっかり働いてしっかり儲ける」といった仕事に対する対価の考え方には、衝撃を受けたという表現が適していると思う。しっかりとした仕事から生み出される商品の付加価値を市場できちんと反映させることの大切さも学ぶことができた。自社の商品に対する信用とプライドを崩さず販売までの一連の動きにより利益の確保がされており、仕事に対しては障がい者も健常者も関係ないことを気づかされた。利用者の自立に向けた先進的な事例であった。

3、岡谷市に反映すべき点

民間事業者としての障がい者福祉の取組みに対して岡谷市内にはこれほどのパワーを持つ企業がないことは残念であると思う。ここまで元気のある事業者はないとしても障がい者福祉に関心を持つ団体及び事業者を増やすことを考えなくては、障がい者の自立は進まないのではないかと考える。

(3) 茨城県水戸市「えこみっと・就労支援事業所水戸市リサイクルセンター」

1、施設・事業概要

水戸市清掃工場「えこみっと・就労支援事業所水戸市リサイクルセンター」
令和 2 年 4 月稼働開始 敷地面積 約 47,868 m² 1 日の処理能力 330 トン
のごみ焼却能力と、55 トンのリサイクルセンター等からなる。施設建設時か

ら障がい者が、作業を行うための場所の確保を行っている。

就労支援事業所水戸市リサイクルセンターは、主に知的障がい者を対象として、就労移行支援及び就労継続支援 A 型を提供する障がい福祉サービス事業である。空きビン、空き缶の選別処理業務を実施している。

就労継続支援 A 型 定員 10 名

就労移行支援 定員 10 名

作業時間は 8 時 40 分から 15 時 40 分（バスでも送迎あり）

ビン・缶類の分別作業を手選別で行っており、ビンの色や種類事に担当者がベルトコンベヤーで運ばれてくるものの中から選別を行っていた

2、評価、感想

「水戸市障害者就労支援施設製品・作業カタログ」を作成しており、

このカタログは、写真や地図もついており、市内事業所でのサービス・活動内容が一目でわかるよう作成され、さらには、注文用紙もついており、発注も簡単に出来るようになっている。

市役所でも課ごとに使用目標があり、障がい者福祉の意識の高さを感じた。このようなカタログがあることで市民の皆様へも、サービス内容の周知が可能となり利用につながっている。とても参考になる事業であった。

リサイクルセンターでの仕事をしている利用者の家族にも喜ばれている事業であることが、社会福祉協議会の職員との質疑で理解できた。

3、岡谷市に反映すべき点

岡谷市ではごみの分別等が進んでおり、びんごみと缶ごみが一緒の袋で出されることはないのので、この水戸市のリサイクルセンターで無色、茶色、緑色などのびんの分別を手作業でする仕事があることが不思議に思え、岡谷市のごみの処理の仕方が先進的であり SDGS 的にもよいことに思えた。

岡谷市の障がい者福祉施策でも目に見えるように数値を出していくことが必要なこともあるのではないかと。（現在も数値はあることは承知している。）

また、岡谷市においても障害者就労支援施設等と連携して共同販売会や市役所庁内の清掃業務の発注などの取組みを今後も継続していただくこと。

各就労支援施設等の販路拡大や役務の受注には難しい点もあると思われるので、行政としての支援の工夫が必要だと考える。

(4) 茨城県日立市

「子育て支援施策」

1、概要

日立市は日立鉱山の開発が始まり、その後同鉱山の電気機械修理工場が株式会社日立製作所として独立している、企業城下町である。人口減少、少子化が進んでいる。

人口 1,663,936 人 世帯数 76,982 世帯 (令和5年7月1日)

日立市の子育て支援施策は、保健福祉部 子育て支援課・健康づくり推進課・地域医療対策課・国民健康保険課などの連携で展開されている。

子ども・子育て支援法に基づき、子ども子育て支援事業計画を市町村が策定し事業を行うことになっている。日立市の地域子ども・子育て支援事業は13事業を実施している。

- ① 利用者支援事業
- ② 地域子育て支援拠点事業
- ③ 妊婦健康検査事業
- ④ 乳児家庭全戸訪問事業
- ⑤ 養育支援訪問事業
- ⑥ 子育て短期支援事業（ショートステイ、トワイライトステイ）
- ⑦ 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）
- ⑧ 一時預かり事業
- ⑨ 時間外保育事業（延長保育）
- ⑩ 秒児保育事業
- ⑪ 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）
- ⑫ 実費徴収に係る補足給付を行う事業（未実施）
- ⑬ 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業（未実施）

日立市独自の6つの無料化

- ① 18歳までず〜っと！医療費が無料
- ② 子育ては一人で頑張らないで！ヘルパー派遣料が無料
- ③ 家計にやさしい！第2子以降の保育料が無料
- ④ み〜んな同じスタートラインで！ランドセル・スクールカバンが無料
- ⑤ 愛情たっぷりの学校給食が小・中学生み〜んな無料
- ⑥ ここも！あそこも！み〜んな楽しく遊んで学べる施設が無料

2、評価、感想

このように手厚い子育ての施策の計画と事業展開をしているので、出生数の伸びがあるかと思われたが実際には減少している。

令和5年度の日立市の当初予算額：724, 2億円のうち子育て関連に関する予算の占める割合は、以下である。

総務費（移住関係を含む）： 86.7億円（12%）
民生費（認定こども園運営を含む）282.4億円（39%）
衛生費（ワクチン接種関係を含む）53億円（7.3%）（

・学校給食費無償か事業費については

令和5年度予算額： 5億4385万9千円
→ふるさと寄付金活用 4億3221万4千円（79.5%）

日立市のふるさと寄付金の主な返礼商品は日立の家電であるので人気もあるとのこと。

少子化対策には子育て環境の向上があげられるのだが、「無料」をお題目に掲げたとしても、出生数の増加は難しいことが分かった。

3、岡谷市に反映すべき点

岡谷市の子育て施策しっかりとされていることが理解できた。行政サービスの子育て支援の充実を図ることだけでは、出生数を増やすことに直接結びつかないのではないかと。国の経済対策や個人の価値観など複合しての課題があると思う。

「Hi タッチランド ハレニコ」

1、施設概要

1991年10月に日立市駅前に「イトーヨーカドー日立店（延べ床面積2万4千㎡ 地下1階地上5階建）」が開業。20数年経ち、人口減少や消費ニーズの多様化に対応しきれず売上高は急減。不採算店舗となった。その後、日立市に度々閉店協議の申し入れを行った。

市は2016年に、市民ニーズの調査を行い、若者や子育て世代への支援で必要なことを聞いたところ、商業施設の充実、娯楽、公園整備、子どもの遊び場等との回答があった。そこで市や市民の意見として要望し閉店撤回もされたのだが、2018年には3度目の閉店が検討され、同店は市に閉店協議を申し入れた。

日立市は閉店を免れる為、多くの子どもが、天候に左右されずに遊ぶことができる場所、子ども及びその保護者が相互に交流・相談できる場所をコンセプトに、子育て環境の充実・まちのにぎわい創出を図るための拠点として、1億

6千万円（施設整備費1,1億円・遊具等5千万円）をかけて、2019年10月に、日立市屋内型子どもの遊び場「Hiタッチらんど ハレニコ！」を同店に設置した。

「Hiタッチらんど ハレニコ！」は、面積2,350㎡。あそび・まなびエリアと子育てサポートエリアで構成されており、東日本最大級の屋内型子どもの遊び場である。0歳児から12歳までと幅広い子ども達が利用できる。使用料は、子ども100円、大人200円であり、あそびまなびのエリアでは、体を十分使って遊べる広さがあり、乳幼児が遊べるゾーンとの区分けもしっかりされている。利用時間も、90分ごとの入れ替え制をとっている

子育てサポートエリアでは、子育てに関する各種講座や一時預かり事業を実施しており、2歳以下の子どもとその保護者が利用できる。

運営及び管理は、指定管理者による管理運営（特定非営利活動法人こども大学常陸）構成は、理事長、社員3名、パートスタッフ約30名のシフト制であり、指定管理料令和5年度は約4,850万円。使用料は全額市の歳入となる。その他の経費としては、約1,500万円の光熱水費が見込まれる。

2、評価、感想

駅前の大型商業施設での事業者の撤退という、まちの賑わいがなくなるという大きな逆風の中、中心市街地における来街目的となる魅力を持った施設整備を考え、交流人口の拡大、商業機能の維持、雇用の場の確保と創出という課題を克服するような施策の展開をしている。また、日立駅前の地区の買い物環境維持のため、生鮮食品や日用品、飲食店などを建物に配置し、魅力のある利便性の高い駅前活用の例と言える。

屋内型子どもの遊び場の利用状況も、令和5年8月には18,381人と過去最多になったことには驚かされた。施設利用者も北関東一円からのようである。

3、岡谷市に反映すべき点

岡谷市も同様、駅は岡谷市の玄関口であり近隣住民はもとより、市内企業や学校に通う方々にとって自然と立ち寄りたくなる施設が必要である。駅前の開発はこれからの岡谷市の魅力と活力の源になると考える。市内企業、市民、駅を利用する人たちから十分にヒアリング等を行い、また専門家からの意見を参考に慎重に期した、そして大胆な駅前開発を考えてほしい。

屋内型子どもの遊び場は、岡谷市にも誇るべき施設があるため、今後も充実させて、交流人口の拡大、若者と子育て世代の定住に向けての施策として行っていただきたい。